

「島力」は持続可能な 地域づくりの原動力

● 7島の交流から連携へそして「組織化」

私は岡山県笠岡市の職員で、笠岡諸島
有人7島の活性化を主な仕事としていま
す。松山市と同じように1つの市で陸地
部(といいながら、日本自体が島ですが
...)と離島を併せ持つ一部離島といわれ
るところです。平成の合併の前は、笠岡
諸島が一部離島では一番多くの島を持つ
自治体でした。(今は松山市のようです)
平成13年に「島おこし海援隊」という行
政組織を立ち上げて、住民との協働で島
おこしを進めてきました。

まず、島同士の交流を促進するため
に、平成10年から各島合同の島の大運動
会を開催し、それぞれの島を知ることか
ら始め、合同のヘルパー養成、合同の組
織「島づくり海社」の設立など、交流か
ら徐々に問題意識の共有、組織化、組織
強化と島おこしの住民主体の組織づくり

に力を注いできました。

また、島づくり「会社」という意図の
「海社」というネーミングも、住民主体の
「自立」という持続可能な組織・地域を
大いに意識して、地域が経営感覚を持つ
ことを目標としています。

● 島力回復プロジェクト

さて、平成13年から丸9年が経過し、
その間ずっと笠岡諸島の島づくりに仕事
として関わってきました。本論に移りま
すが、偶然にも笠岡諸島でも「島力」と
いうテーマで平成21年度の事業を行っ
ていたのです。それは「島力回復プロジ
ェクト」島の教育を考えるフォーラムと
いう事業です。島の活性化の最後の砦が
「学校」だと思っています。「島から学校
の灯を消さない」というのが、これまで
の私の自身の島おこしの目標で、このた

めに各種事業を展開しています。

しかし、ほとんどの地域は「地域のた
めに学校を存続させてほしい」と言い、



NPO法人
かさおか島づくり海社
営業部長
守屋 基範
(岡山県笠岡市)



島の大運動会(飛島大会)

保護者は少人数教育に不安を感じ、島を出る機会をうかがっているというのがこれまでの構図で、徐々に子どもの数が減って、今やこれ以上減ると学校としての機能を果たせないということまで来ています。

●伊座利に「島力」を見た

このフォーラムには、徳島県伊座利の草野さんにもお越しいただき、地域と学校の役割について色々と教えていただきました。草野さんから「伊座利は一種特殊なところがある」と言われたように、それほど伊座利の事例は普通のところにはまねのできないものであると感じまし



教育フォーラム

た。

数人の人が先導的に事業を見せて行くことはある意味では可能で、外目に見ていると何か動いているように見えるのですが、ちよつと歯車が狂うと一瞬に崩壊してしまふ。それは「島力」ではなく個人の「自力」でしかないのではと思っています。

話は戻りますが、地域を存続させるために学校を残すのではなく、地域の子供を育てるために地域が学校を巻き込みながら、地域で子どもを育てているのが伊座利ではないか、これが「島力」ではないかと思っています。

これは単に教育のことにとどまりません。昔ながらの相互扶助の精神がなくなつていき福祉産業が急成長してきました。これまで資格がなくとも普通に隣近所の人がホームヘルパーの役割を果たしていたけれど、資格が重視されお金で解決するような時代になっています。

本当の意味で大切なものは、国や県の制度や政策に左右されるのではなく、島の流儀として残されなければならないものはあるはずです。それ



灰干し体験ツアー

をお互いに守り、より良い形で引き継ぐことが「島力」ではないかと思っています。

●「島力」の可能性

「島は日本の縮図」とよく言います。昔ながらのまとまったコミュニティがまだ残っています。島を少子高齢化の大変な地域と見るか、少子高齢化の先進地と捉えて、今やっている活動が必ず今後の陸地部を含めた日本全体の問題解決につながると思つて頑張るか、大きな違いがあります。島自体の良さと、それを運営していく地元のマンパワー、移住を含めた外からの協力者・マンパワー等が、持続可能な地域づくりを進める原動力となります。そしてその力の結果が「島力」だと思っています。私は

そんな「島力」の結集組織をNPO法人かさおか島づくり海社と位置付け、個々の島から考え、笠岡諸島の全体を一つの島と考えることにより、数々の問題点が解決している事例がここにあります。島から大いに情報発信したいと思っています。